



**とりあえず、やってみる。やりながら反省と改善をして、またやってみる。**

**◇今回は、加藤友隆さん（福井県立大学経済学部経営学科）のレポートです！**

こんにちは。私は福井県立大学経済学部経営学科4年生の加藤友隆と申します。今回、高校時代の恩師から本稿の執筆のお話をいただいたので、関高校の皆さんに地方の大学の魅力を紹介すると共に進学への参考になれば幸いです。

## 大学選びの経緯

高校の成績は中の下ぐらいでした。赤点を回避できるくらいだったような気がします。3年間通して「まあ、こんなもんか。」とテストがあるたび思い込んでいました。3年生になり、周りが受験勉強を意識し始めてから、受験を意識し始めました。低レベルな意識が起因して、センター試験（1次試験）は結果が出ませんでした。模擬テストよりも点数が悪く、自己採点した時の後悔は今も忘れません。

「国公立大学に現役合格しなければ家業を継いでもらおう！」と親から脅されていました。まだ実家で働きたくなかったので、後期試験で合格する可能性が高い福井県立大学を選びました。

気がついていただけたでしょうか。私はこの学部で学びたい！この教授についていきたい！！といった明確な目標がなく進学を希望しました。

## 福井県立大の特色

福井県立大学の特徴について紹介します。おそらく、他の地方公立大学にも同じことがいえるのではないのでしょうか。

まず、学生数の少なさがあげられます。福井県立大学の生徒数は1,764人。ちなみに、岐阜大学は7,283人で名古屋大学16,483人（2015年5月1日）。日常生活で生徒が溢れかえることはほとんどないです。また、学生生協はない、下宿周辺にはスーパーがない、遊べるようなお店が大学周辺にない。最寄り駅まで徒歩20分。バスは1時間に3本。

でも、県大の強みもやはり学生数の少なさ。学生数が少ないので講義中に教授との距離が近いため、質問がしやすいです。40人を超える受講者をもつ講義は少ないです。高校授業よりも人数が少ないですね。教授と仲が良くなり、講義の後にお昼ごはんを食べに行ったことも多々あります。また、教授と2人きりで講義をすることもあり、学業がしやすい環境と言えます。

人が少ないのでとても静かです。夜うるさくて寝付けないなんてことはありません。

家賃が安いです。学生マンションとして不動産が持っている物件や、大学から紹介されている物件は同じ広さを都市部で借りようとするとおおよそ倍の値段です。

学生の半数以上が運転免許証を持ち、その大半は自家用車をもっています。構内では県内全ての自動車学校が4、5月にブースを設けて営業をしているほど自家用車の文化があります。大学の駐車場は無料で、収容台数が約1,200台です。一般の方が停めていても何も言われないほどです。

福井県立大学の就職率は、300大学中30位。アルバイトの面接で「県大生（福井県立大学生）なの！なら大丈夫ね！！」と、福井県で活動する上で福井県立大学生という肩書きは大人の方々から高い信頼をいただいています。ちなみに、岐阜経済大学は57位です（東洋経済オンラインより）。

<https://toyokeizai.net/articles/-/183011?page=5>

## 学生生活

私の大学4年間で少しだけ紹介します。

災害ボランティア部とフットサル部に所属しています。災害ボランティアでは東日本大震災の被災地での奉仕活動や熊本震災の現場視察などの活動を行いました。また、被災時の動き方や傷病者の応急処置を身につけました。フットサル部では学生部門で福井県代表のチームになり北信越大会に出場しました。他に3つのサークルをかけもちしています。部活やサークルに多く所属していると学生生活で頼りどころが増えるため、いざという時に助かります。



「福井県の学生全員と学園祭をする。」を目的に学生団体に所属していました。福井県の社会人の方々と関わったのはとても良い経験です（左下画像）。将来的に家業を継ぐため、3年次に料理学校とダブルスクールしていました。料理学校の先生や、大学の教授のお力添えもあり無事やりきりました。



岐阜大学や名古屋大学に進学した友人と大学生活の話をする、福井県立大学のような地方の大学では得られる情報量が少ないと感じることもあります。なんとなく過ごしていると優しい教授や面白い先輩、学生団体が目の前にあるのに、その情報が手に入らず卒業してしまうかもしれません。

そのようなことがないように、自分から動くことをお勧めします。主体的に興味があるものには、”とりあえず、やってみる。”やりながら反省と改善を”してまた”やってみる”。その繰り返しをすれば多くの情報量と経験値を得ることができます。この4年間で「若いうちから失敗しなさい。」と何人もの方々からアドバイスいただきました。 ”とりあえず、やってみる。”